

いわて平泉米だより

令和8年3月号

良食味米生産は土づくりから

○雪解け後、地温が上昇し始めたタイミングで早めの春耕起を実施しましょう

春耕起は主に作土深の確保や代かき作業に向けた圃場の碎土・均平を向上させるのが目的ですが、早期に行うことによって稲わらやひこばえ等の分解を促進することができます。耕起作業が遅くなると、田植え後に稲わらが分解される過程でガスが発生し、根腐れといった被害にもつながります。



ひこばえの多い圃場は、ガスの発生に注意

○田んぼの水を抜き、酸素を供給しましょう

水を抜くことで微生物が活発化して分解が促進されます。圃場が湿田で、耕起作業が難しい場合には無理に作業せず明渠による排水作業を心掛けましょう。

○ケイ酸質資材を施用しましょう

高温などの異常気象に強い稲体作りに効果的で、食味の向上にもつながります。

以上の3点をポイントに土づくりに努めましょう。